



副院長、地域連携室長

ご挨拶 ～架け橋を渡る～

調布東山病院地域連携室の広報誌“つなぐ”をご覧いただきありがとうございます。また、日頃より当院と連携を図ってくださっている医療機関・介護施設・行政の皆さまには大変お世話になり、心より感謝申し上げます。

目前に迫った少子高齢化社会を見据え、今こそ調布の地でも、医療と介護の協働による地域主体の地域包括ケアシステムが構築されつつあります。その中で私たちは、



副院長、地域連携室長

中村 ゆかり

医療と介護の区別なく、地域と当院をつなぐ架け橋になりたいという思いから、2016年12月、「地域医療連携室」から「地域連携室」に名を改めました。

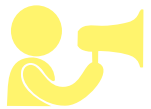
当院の地域連携室では、連携窓口業務以外にも様々な活動をしています。昨年度は、以下の取り組みを行いました。

- 1) 外来クランクと協働で内科系外来に「地連枠」「初診枠」を造設
- 2) 二次救急医療開始に伴い救急隊と情報交換を行い、院内体制を整備
- 3) 地域住民の健康増進を目的に運動教室を開催
- 4) 摂食嚥下機能向上のために歯科医師との連携体制を構築
- 5) 多職種協働での入退院支援への参画
- 6) 当院の病床を地域社会の病床として有効活用するために、利用可能病床の見える化

今年度も地域包括ケアシステムの一員として、当院が皆さまのお役にたてるよう、地域連携室として様々なプロジェクトを展開したいと考えています。“こんなことしてほしい”とご要望がございましたら、是非お声かけください。

地域と当院をつなぐ架け橋とは、単に情報伝達の手段ではなく、渡っていただいてこそ本当の架け橋になるのだと思います。地域医療・介護・行政の皆さま、是非当院にお越しください。私たち病院スタッフも病院から地域に出て、活動の場を広げたいと思っています。

今回の広報誌では、今年度の診療部のキックオフ、大腸ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）など診療部の活動の他、他部署の活動も紹介しています。架け橋を渡るためのお役にたてましたら幸いです。



トピックス

4月23日 診療部キックオフミーティングを行いました



診療部キックオフミーティング

当院では、毎年2月に翌年度の法人目標や運営方針を全職員にむけて説明する職員総会を開催し、法人全体で地域医療・介護に貢献する意識を高めています。これを受けて、4月23日に診療部（医局）の医師が集まり、各診療科の今年度の目標や方針を説明・発表するキックオフミーティングを行いました。以下に、その内容を一部ご紹介いたします。

地域の人たちのために

最初に私（院長）から、診療に際して患者さんの不安や苦痛に共感して欲しい、自分や病院の利益のために仕事をするのではなく、地域の人たちのために仕事をするという意識を持って欲しい、と呼



▲須永院長からは、医療の原点となる意識の持ち方についてお話がありました。



トピックス

4月2日 入職式を行いました

4月2日、入職式を行いました。医師・看護師・コメディカル・事務と合わせて24名の新しい仲間を迎えました。理事長と院長からの歓迎の言葉の後、早速研修が始まりました。夕方には職員食堂へ場所を移し、懇親会

びかけました。これらは、当法人の理念に通じるものであり、医療の原点として忘れてはならないものと考えています。

診療科ごとの現状と方針

次いで各科の先生方が、各々の現状と今年度の取り組みなどについて発表しました。

【内科】従来どおり、多職種協働、チーム医療で対応し、地域包括ケアシステムの一員として機能したい。【消化器内科】消化器の急患に対応していきたい。大腸ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）認定施設になった。【外科】紹介医を大切にしたい。再手術0、予定手術の在院死0を維持したい。【整形外科】脊椎圧迫骨折への対応を工夫したい。【放射線科】迅速、正確な画像診断を心がける。Dr's Drとして努力を続ける。【リハビリ科】入院患者のADLを低下させない。呼吸リハや訪問リハも充実させたい。【透析センター】

オンライン HDF（血液濾過透析）を導入。透析患者入院時の情報共有の徹底。【ドック・健診センター】人間ドック健診施設機能評価受査。生活習慣病患者のドック後の follow 体制を強化したい。【訪問診療】地域の訪問診療体制への貢献を念頭に在宅センターを立ち上げる。



▲外科は平崎先生から。手術の件数など現状や目標の数字を具体的に発表。

働く私たちが意識変革を

最後に理事長から、急性期病院で働く私たちこそが意識を変え必要がある、という話がありました。私たちが対応するのは「患者」ではなく「地域で生活している人」である、という視点・意識をもつことの重要性を皆で共有しました。

まだまだ理想どおりに行かないことが多いかもしれません。今年度も地域の皆さまの声を聞きながら、診療に取り組んで参りたいと思います。[文／須永 眞司(院長)]



小川理事長から歓迎のあいさつ

施設認定取得

大腸ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）

地域の先生方にはいつも大変お世話になり、ありがとうございます。調布東山病院は2018年1月に、**大腸癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（大腸ESD）の施設認定を取得**しました。いつも大切な患者さまをご紹介いただき、当院を支えてくださっている先生方のお陰と、大変感謝しております。施設認定に伴い、早期大腸癌や癌を否定できない大腸腫瘍（ポリープ）に対し、大きさの縛りなく内視鏡治療が可能になりました。

すでにご存じとは思いますが、この場をお借りして、大腸腫瘍に対する内視鏡治療の種類について、簡単にご紹介したいと思います。

①ポリペクトミー

病変にスネアという金属の輪をかけ高周波電流を通電して焼き切る方法です。簡便な治療法ですが、腸壁への付着部が比較的狭い隆起性の病変しか対象となりません。

②内視鏡的粘膜切除術（EMR）

病変直下の粘膜下層に生理食塩水などの液体を注入して病変を膨隆させ、スネアをかけて通電して焼き切る方法です。付着部が多少広い病変や平坦病変でも切除できますが、スネアをかけられる2cm弱までの病変が対象です。

③内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）

病変の基部および周囲に薬液を注入して十分病変を浮き上げらせ、電気メスで粘膜切開した後、粘膜下層を剥離して病変を切除する方法です。2cm以上



の大きな病変も切除可能ですが、EMRよりも技術的難易度が高く、大型病変が対象になるため、治療時間、入院期間も長くなります（当院では1週間程度の入院です）。

...

当院では術前に拡大内視鏡も含めた精査を行い、内視鏡治療適応なのかどうか、適応であればどの治療法が最も適しているかを、しっかり診断した上で治療を行っています。

近年、日本では大腸癌の罹患率、死亡率ともに増えてきています。最新の癌統計によると、2016年の癌の部位別死亡数では、大腸癌は男性で第3位、女性では第1位、2013年の罹患数で見ても、男性で第3位、女性で第2位となっています。調布市は健康意識の高い方が多く、70代、80代でも定期的に内視鏡検査を受けている方がたくさんいらっしゃいますが、それに伴い、ご高齢で癌が見つかることも増えてきています。外科治療と比べてお体への負担が

少なく、入院期間も短くて済む内視鏡治療は、今後ますます重要になってくると思います。当院では今年の4月より**内視鏡治療を得意とする医師が増えた**ので、ご紹介いただいた患者さまをできるだけお待たせしないよう、引き続き努力していく所存です。

もちろん癌を内視鏡治療で治すためには、早期癌または腺腫の段階で病気を見つける必要があります。そのためには内視鏡検査が必須となります。大腸内視鏡検査は患者さまにとって、比較的敷居の高い検査だと思いますが、当院のモットーである**“できるだけ辛くない内視鏡検査”**を実践できるよう、安心できるお声がけ、丁寧な内視鏡操作、適切な鎮静剤の使用など日々工夫を重ねています。また**女性内視鏡医も複数おります**ので、女性の患者さまなどで女性医師を希望される方も、ぜひご紹介いただければと思います。今後とも調布東山病院をよろしくお願い致します。

[文／平山 慈子(消化器内科医師)]



とうざん's

新入職医師のご紹介



呼吸器内科 えんどう じゅんじ 遠藤 順治

みなさん、初めまして。2018年4月、横浜市立みなと赤十字病院から調布東山病院内科に入職しました遠藤順治です。4人兄弟の2人目で、横浜育ちです。

平成4年、東京医科歯科大学を卒業後、大学病院や関連病院などで勤務しました。専門分野は、呼吸器内科とアレルギー内科です。みなと赤十字病院では

アレルギー内科専任で、成人の気管支喘息、慢性咳嗽、アナフィラキシー（食物アレルギー、薬物アレルギー）、などを中心に診療しました。

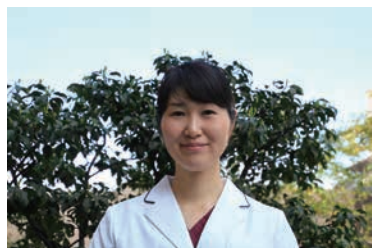
卒後10年頃、都内の中規模病院で約8年、須永先生と一緒に内科医として働く機会に恵まれました。私とその病院を異動した後も須永先生には何かあるたびに食事にお誘いいただき、お付き合いさせていただき、今回、色々なご縁で、東山病院に異動することになりました。「人との出会い」に恵まれていることを実感し、本当に感謝しています。

趣味は写真と音楽鑑賞です。小学生頃から何にでも興味はありましたが、お金がありません。

父のフィルムカメラを触り、いつかは自分も欲しいと思い、大学2年生頃やっと買うことができました。音楽は父も好きで、私が小学生の時、ラジカセを買ってくれて当時流行っていた「エア・チェック」に熱中していました。最近はなかなか趣味に費やす時間がなく、運動会で子供の写真を撮る程度です。

子供が風邪をひいたり、怪我をした時に、自宅近くに医療機関があると本当に助かります。調布東山病院は、地域に良質な医療を提供し、安心して暮らしていけることを大切にしている病院であることを伺い、とても共感しました。今後、少しでもお役に立てるよう精進していきたいと思います。よろしくお願いいたします。

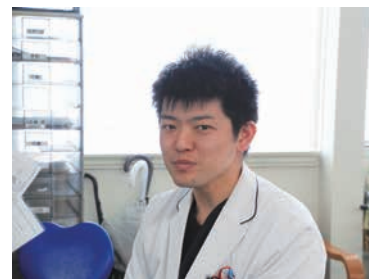
一方、現在1歳半の双子の男の子の子育て真っ最中でもあります。予想外の彼らの行動に、悲鳴をあげたり、大笑いしたり、なんだか感動してみたりと、てんやわんやの毎日です（大抵が悲鳴ですが…）。彼らがくれるパワーを生かし、いつも笑顔で明るく、地域の方々の生活に寄り添えるような診療に努めてまいりたいと思います。みなさまと一緒にこどもからお年寄りまで、安心して人生を歩んでいける街調布を目指していけたら大変うれしく思います。どうぞよろしくお願いいたします。



内科、リウマチ科 さくま ゆうこ 佐久間 裕子

内科、リウマチ科の佐久間裕子と申します。北里大学卒、北里大学病院で初期研修、川崎市立川崎病院で後期研修を経て、北里大学病院の膠原病感染内科でリウマチ性疾患を学んできました。近年は同大学院で、全身性エリテマトーデスの中枢神経病変についての研究に携わってきました。

4月から調布東山病院で勤務させていただくことになりました。私は生まれも育ちも調布仙川、そして、現在も仙川在住です。調布は私を育ててくれた大好きな街です。この度、その調布で勤務させていただくこととなり、大変うれしく思っています。さらに、調布東山病院とは生まれ年も同じであり、同じ時に同じ街に生まれたこの病院で働けることに嬉しいご縁を感じるばかりです。ここ数十年で大きく革新してきた調布の街と調布東山病院、これから先もますます発展していくことと思います。微力ではありますが、調布東山病院の一員としてその発展に少しでもお役に立てるよう、努力してまいりたいと思います。



消化器内科 なかに ゆきひろ 中谷 行宏

はじめまして。4月1日より調布東山病院の一員となりました消化器内科の中谷行宏と申します。



内科 ながせ まさし 長瀬 将

皆さんこんにちは。この度武蔵野赤十字病院の内科専攻医として調布東山病院で半年間研修させていただくことになりました長瀬将と申します。

和歌山県出身で、平成21年に地元の和歌山県立医科大学を卒業後、同病院で2年間の初期研修を行いました。その後、広く急性期疾患を学ぶため、東京都内の救急病院にて急性腹症、消化管出血、急性胆嚢炎、胆管炎など多数の消化器疾患を含む、救急診療に従事しました。ここ3年はさらなる内視鏡治療技術の向上を目指し、がん専門病院で主に早期癌に対する内視鏡治療(ESD)について修練を重ねました。また、消化器がんに関する化学療法、病理診断等の

総合的な知識、技術を向上させることができました。

専門は早期癌に対する内視鏡治療ですが、元々はおなかが痛いなど、誰もが一度は経験したことがあるような症状の原因を探り、治療ができる医師になりたいと思い、消化器内科医を志しました。消化器系の疾患が疑われれば、どんなことでもお気軽にお声がけをいただければ幸いです。これから自分の専門性を生かして、地域の皆様に貢献できれば幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

京都生まれ、長野育ちで、高校から東京に移り、大学は新潟とこれまで各地を転々としてまいりました。大学卒業後は千葉県銚子市に隣接した旭市にある旭中央病院という急性期病院で2年間の初期研修を行い、3年目から内科の後期研修医として武蔵野赤十字病院に勤務しております。

趣味はスポーツ観戦です。特にサッカーは大好きで、去年は味の素スタジアムで大久保選手のユニフォームを着ながらFC東京の試合を観戦しました。今年はワールドカップがあるので今からとても楽しみにしています。

医師としては4年目で、今後は循環器内科を専攻する予定ですが、たとえ専門診療科に進んだとしても、一内科医として患者様を全人的に診療できる医師でありたいと常日頃考えております。予防医学から急性期及び慢性期の診療、ひいては在宅医療までを一手に担う調布東山病院で内科医としての礎を築くこの上ない機会に恵まれましたことを光栄に感じ、医療に携わる全職種の方々とチーム一丸となって地域の方々の健康増進に寄与できるよう精一杯診療に当たらせていただきたいと思います。短い間ですが宜しく願い致します。

山田隆・Dr.の

季節の植物図鑑

Vol.8



ミツマタ

ジンチョウゲ科ミツマタ属の花。低木の落葉樹で、枝が3つに分枝して伸びることから名付けられた。花期は3月初旬～4月初旬、蜂の巣に似た黄色い花が下向きに開く（園芸種に朱色の花のアカバナミツマタがある）。強い繊維質の樹皮は和紙の原料として用いられ、日本では1879年以降、紙幣の材料として使われている。



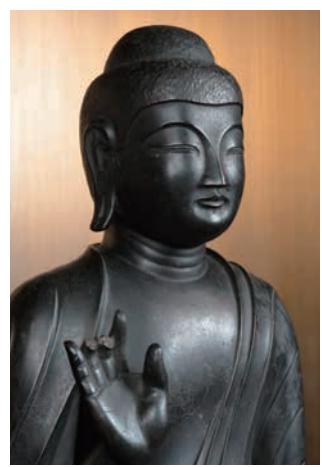
あっ！ 調布にこんなところが

本堂建立100年 東日本最古の国宝がある寺院



奈良時代から1300年近い歴史を持つ名刹として、全国的にも有名な深大寺。調布市民には身近な憩いの場でもあります。また今年は現在の本堂が建立されて、100年の節目の年に当たります。

平成29年には銅造釈迦如来像（白鳳仏：はくほうぶつ）が国宝に指定され、東日本で最古の国宝仏となりました。都内の寺院にある仏像では唯一の国宝仏です。



▲国宝 銅造釈迦如来像（白鳳仏）

現在白鳳仏が安置されている釈迦堂には、同じ工房の作と伝えられる新薬師寺（奈良）香薬師像、鶴林寺（兵庫）聖観音像、龍角寺（千葉）薬師如来仏頭の模造御分身が共に展示されています。

境内では年間を通じて様々な行事も行われ、3月のだるま市や、5月上旬になんじゃもんじゃの木の下で行われるコンサートが特に有名です。



▲新緑を目にしながら、外で名物の蕎麦や甘味を味わうのもまた一興

▼建立100年を迎える本堂



昨年秋に市内各所で開催された糖尿病予防のイベント「ちょうふブルーサークル運動」にも参加していただき、11月の1週間、山門前の灯籠が青くライトアップで彩られました。

きれいな湧水が育んだ名物の深大寺蕎麦、鬼太郎茶屋など門前町の風情ある甘味処も魅力です。

桜や紅葉など季節ごとに様々な顔を見せてくれます。新緑が美しいこの季節、散策に出かけてみてはいかがでしょうか。



▲青くライトアップされた灯籠

深大寺

- 調布市深大寺元町 5-15-1（調布駅、つつじヶ丘駅からバス 10～15 分）
- 釈迦堂 拝観時間 / 9 時～17 時（夏季） 9 時～16 時（冬季）
- 電話 / 042 - 486 - 5511



トピックス

3月2日 看護研究発表会を開催しました

3月2日、「2017年度 看護研究発表会」を開催しました。

昨年6月から東海大学看護研究会コーディネーター 堀喜久子先生のご指導のもとで行い、より質の高い看護ケアを目指した研究発表となりました。発表の内容は右のとおりです。

各部署優劣つけがたく、福地洋子看護部長からは全部署に奨励賞が渡されました。

【外来】夜間・休日の電話問い合わせについての実態

【桜ヶ丘東山クリニック】災害時対応力の向上へ向けた取り組み

【6階病棟】KTBCを用いた高齢肺炎患者の看護介入の効果

【外来透析】穿刺困難患者に対する穿刺ミス減少への取り組み

【手術室】手術室看護師による、外来での術前オリエンテーションの導入

【5階病棟】TENA オムツ使用患者の陰部洗浄による真菌症予防について

▶看護研究発表会の様子



トピックス

3月3日「第13回 調布葉葉連携の会」が開催されました

地域で患者さまを診ていくための連携を目的に、「調布葉葉連携の会」が開催されました。

今回のテーマは「地域で取り組む喘息・COPD患者への吸引指導～吸入指導ネットワークの構築～」。

当院の患者さまが、調剤薬局でどのような吸入指導を受け、その効果はどうだったのか、患者さま

の実例を交え、当院の返田医師とその効果を検証していくという新しい取り組みにチャレンジしました。



▶調布葉葉連携の会の様子

調剤薬局薬剤師、病院薬剤師、医師、それぞれの立場から意見交換がなされました。



トピックス

調布介護者支援ネットワーク主催の講演会にて大熊 るり 医師が講演しました

3月8日に調布介護者支援ネットワーク主催の講演会「第17回つなげよう介護の声」が開催されました。



▲満員の会場

今回、調布東山病院リハビリテーション室長の大熊るり医師を呼んでいただき、「知って安心！『脳卒中後のリハビリについて』～家族、介護者の立場で知っておきたい知識や情報～」というテーマで講演いただきました。

当日は土砂降りの雨にも関わらず満席となり、参加された方は自分ごととして大きく頷きながら聴かれていました。



▲大熊るり医師

講演後の質疑応答も活発に行われ、盛況のうちに幕を閉じました。

とうざん 写真部

撮影用照明器具を扱う地元の企業、株式会社アーク・システムさんが、地域の方々への感謝の気持ちを込めて野川の桜並木を照らしてくださっています。▶

今年も調布の春の一大イベント、「野川の桜ライトアップ」が3月30日に行われました。15回目となる今年は、テレビでマツコ・デラックスさんが紹介したこともあり、例年よりもさらに多くの方がいらっしゃいました。

満開の桜並木が見事に照らされ、幻想的かつ圧巻の美しさに多くの人々が歓声を上げています。一年に一度、わずか3時間だけ味わうことができる美しさ。桜の花のはかなさと、この地域とのご縁を思いつつ何度も何度もシャッターを切りました。



地域の皆さま向けイベント

つながカフェ

6月23日(土) 9時30分～11時30分

※途中入退場自由



健康についてお話しされたい方、そのご家族であればどなたでもご参加いただけます。開催時間中は出入り自由ですので、お気軽にお立ち寄りください。

会場／調布東山病院7階会議室 参加費／無料

お茶やお菓子をご用意しています



患者さま向けイベント

とうざん生活習慣病教室

テーマ「膵臓」

講師／山本 立真 医師(外科)

最近、有名人が膵臓の病気にかったことが話題になることが多くなりました。膵臓に関する基礎知識から膵臓の病気について、外科医の立場からお話しします。

5月26日(土) 14時～15時30分

会場／調布東山病院7階会議室 参加費／無料

事前の参加
申し込み不要！



地域の医療介護を支える仲間向けイベント

第8回 調布東山病院 医療・介護勉強会

～その人らしく暮らせる地域を目指すために～

講演テーマ

“その人らしく生ききる”ために地域で協働できること

認定看護師の関わりについての講演と、グループワークを行う予定です。

日時／6月8日(金)

18:30～20:30 (開場 18:00)

会場／調布東山病院 7階 食堂

参加費／無料 (軽食をご用意しています)

定員／50名

お問合わせ／調布東山病院 居宅介護支援室 小笠原
(電話：042-481-5731)

医師向けイベント

第14回

調布医療連携カンファレンス

2018年7月10日(火) 19時30分～

講師／東京慈恵会医科大学 柏病院 三浦 靖彦 医師

アドバンスケアプランニング

『かかりつけ医が行うACP(仮)』

日本医師会が医療関係者の意識啓発を目的としたパンフレット「終末期医療 アドバンス・ケア・プランニング(ACP)から考える」を作成しました。超高齢社会を迎え、これまで以上に大きな課題となっている終末期医療について、一緒に考えていきましょう。皆さまからのご参加を心よりお待ちしております。

日医生涯教育制度の
単位取得が可能になりました。

カリキュラムコード・単位
cc:82【生活習慣】1単位
cc:12【地域医療】0.5単位

会場／調布東山病院7階会議室
参加費／500円(軽食をご用意いたします)
問合せ・申込み／地域連携室(042-481-5044)



地域連携室

診察・検査・入院など、
お気軽にご相談ください。

TEL: 042-481-5044 (直通)
FAX: 042-481-5056

月～土・9:00～16:30
日祝日・休み

編集後記 今年度最初の表紙には、地域連携室長よりメッセージをいただきました。この熱い想いととも、様々な活動を通して地域とのつながりを強くしていきたいと思ひます。イベントへもぜひご参加ください。(広報課) 表紙撮影：宇佐見 佳代

編集／発行
調布東山病院 経営企画部広報課
TEL: 042-481-5583 FAX: 042-481-5535